

PROGRAM

「JAXA航空技術部門の最新成果」

理事／航空技術部門長

中橋 和博



14:45
～
15:00

JAXA航空技術部門は、日本の航空機産業の発展に貢献するため3つの研究開発プログラム(航空環境技術の研究開発、航空安全技術の研究開発、航空新分野創造のプログラム)に取り組んでいます。ここでは、これらの研究開発の最新成果を紹介します。また、国立研究開発法人として成果の最大化を目指し、今年度から導入した産業界や大学等と連携して研究開発を進める新たな仕組みについても紹介します。

「次世代運航システム(DREAMS)プロジェクトが目指したもの」

航空技術部門 航空技術実証研究開発ユニット長

越岡 康弘



15:00
～
15:15

今後の航空交通需要の増加に対応するグローバルATM構想がICAOより提唱されています。我が国でも、国土交通省が「航空交通システムに関する長期ビジョン」を掲げました。DREAMSプロジェクトでは、このビジョンの実現に貢献すべく、安全で環境に配慮した効率的な運航に必須となる技術の研究開発を行いました。一部の技術は、既に実用化が進められており、今後は、更なる利用拡大を図ります。

「気象を予測し安全かつ効率的な離着陸を実現する技術」

航空技術部門 航空技術実証研究開発ユニット
気象情報技術セクションリーダー

又吉 直樹



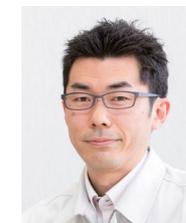
15:15
～
15:30

DREAMSプロジェクトでは、航空機の安全かつ効率的な離着陸を実現するため、①後方乱気流(航空機自身が作り出す渦流)を予測して離着陸の間隔を短縮する技術、②事故等の要因となる空港周辺の風の乱れを自動で検出・情報提供する技術、を開発しました。開発した技術は、国土交通省航空局の施策への反映や気象庁での実用化が進められています。

「災害時における航空機の情報共有を実現する技術」

航空技術部門 航空技術実証研究開発ユニット
防災・小型機運航技術セクションリーダー

小林 啓二



15:30
～
15:45

DREAMSプロジェクトでは、大規模な災害が発生した際に、救助・救援活動のために集まった消防防災ヘリコプター等の航空機と、現地の災害対策本部との間でリアルタイムの情報を実現する技術を開発しました。開発した技術は実用化が進められており、総務省消防庁や消防防災ヘリコプター等で実運用が開始されています。

15:45
～
16:00

DREAMSプロジェクト質疑応答

「次世代航空イノベーションハブの紹介と安全技術についての取組み」

航空技術部門 次世代航空イノベーションハブ長

伊藤 文和



16:00
～
16:20

本年4月に発足した「次世代航空イノベーションハブ」の設立目的や研究開発の状況を紹介し、具体例として航空機事故防止技術の研究開発では、運航会社のニーズの高い気象影響防御やヒューマンエラー防止をとりあげ、航空工学に加え気象学、雪氷物理、材料化学、人間工学などの分野を糾合し、大学、研究機関、企業の参画によるオープンイノベーションに取り組んでいます。

16:20
～
16:45

意見交換

司会
進行

寺門 和夫 科学ジャーナリスト

(株)教育社で20年間以上にわたって科学雑誌『ニュートン』の編集責任者をつとめたほか、多数の科学書籍の翻訳出版などに携わった。現在は科学ジャーナリストとして宇宙開発、航空技術、惑星探査、地球環境、エネルギー問題などの取材を続けている。

